

クボタトラクタ

取扱説明書

GB13・14・15



F-10095

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

CLICK HERE TO **DOWNLOAD** THE COMPLETE MANUAL

- Thank you very much for reading the preview of the manual.
- You can download the complete manual from: www.heydownloads.com by clicking the link below

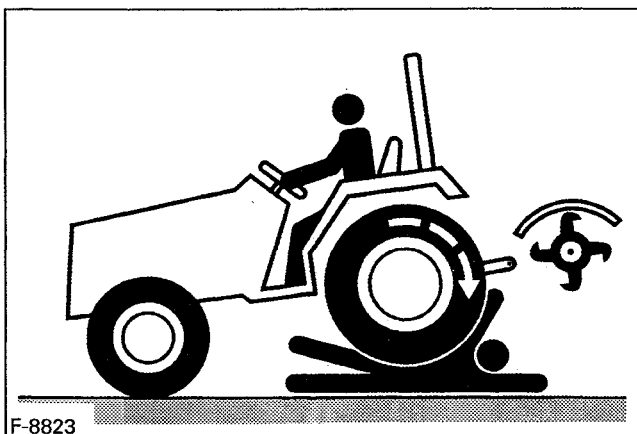


- Please note: If there is no response to CLICKING the link, please download this PDF first and then click on it.

CLICK HERE TO **DOWNLOAD** THE COMPLETE MANUAL

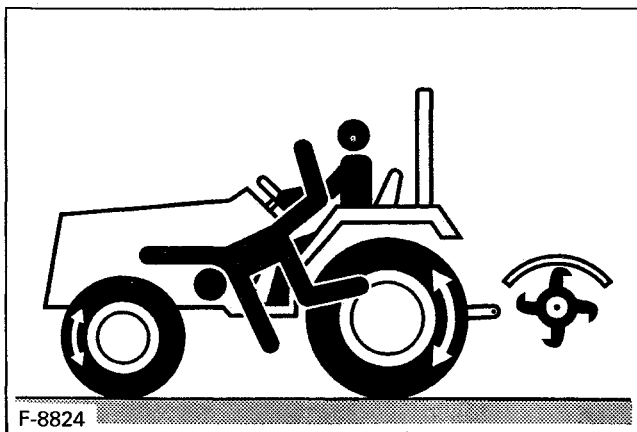
必ず読んで
ください。

- (3)トラクタを始動、運転するときは前後左右をよく確認し、付近に人(特に子供)を近づけないでください。もし変速ギヤが入っていると車体が動いたりロータリが回転したりして事故になるおそれがあります。又、安全フレームに当たる障害物がないかも確認してください。

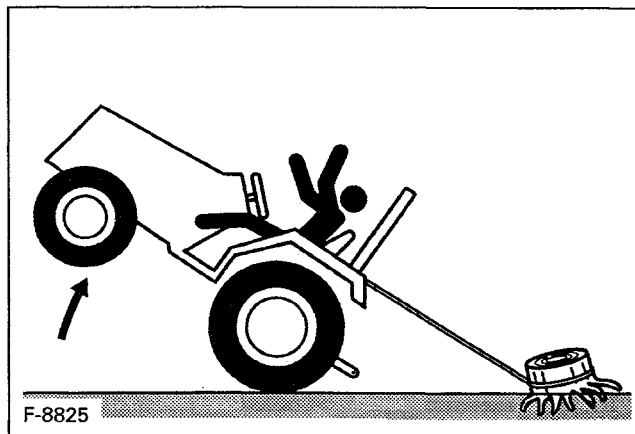


4. 運転時に

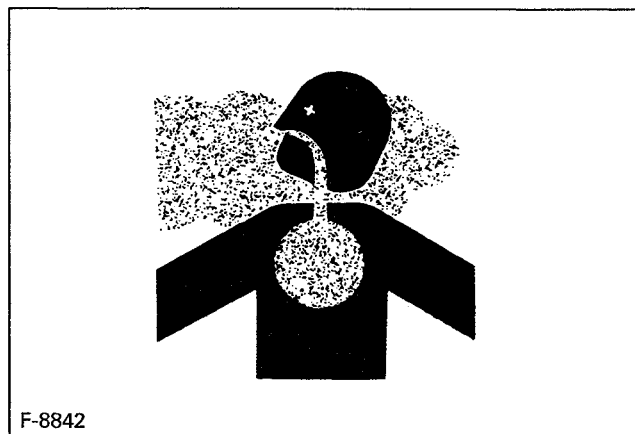
- (1)子供はもちろん運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。
又、必ずシートに座って運転してください。



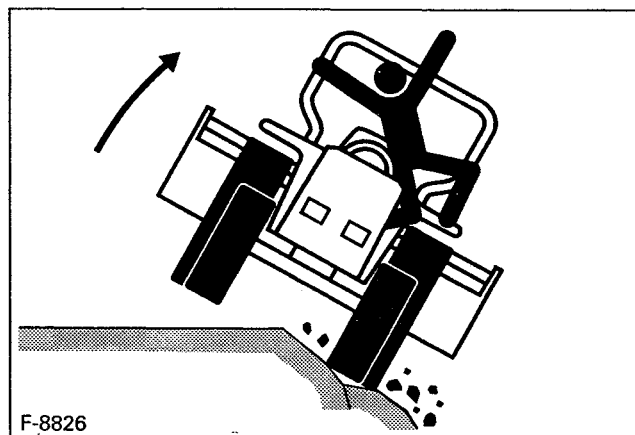
- (2)けん引作業には、けん引ヒッチ(別売)を用い、絶対に車軸やトップリンクブラケットなどで引張らないでください。
トラクタの破損や転覆の原因となります。



- (3)換気が不十分な所では、暖機運転や作業はしないでください。
排気ガスにより一酸化炭素中毒のおそれがあります。



- (4)溝や穴の近く、路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。
また、草の繁ったところや水たまりなどには、隠れて見えない窪地がある場合があり、トラクタが落ち込むと転倒することがあります。そういう所は必ずトラクタから降りて確認してください。



小型特殊自動車としての取扱い

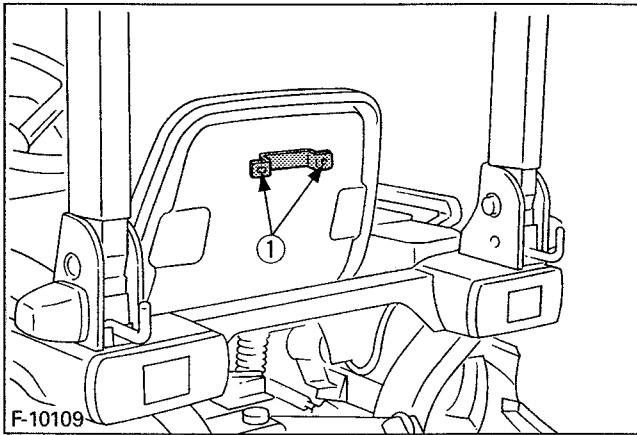
このトラクタは、道路運送車両法の小型特殊自動車に該当します。

■小型特殊自動車取得の届出と標識(ナンバープレート)の取付け

新たに小型特殊自動車の所有者となった者は、市町村条例により、その取得したことを市町村役所に届けて、標識(ナンバープレート)の交付を受けなければなりません。

手続きは市町村により、多少異なりますので詳細は、購入先にご相談ください。

- ① 小型特殊自動車を購入したときは、販売証明書等(購入先で発行)に、軽自動車税を添えて市町村役所に届出ます。
- ② 届出が済むと標識(ナンバープレート)が交付されます。
- ③ 標識(ナンバープレート)は、車体の取付け位置に取付けてください。



① 標識(ナンバープレート)取付位置

■運転免許

公道を走行する場合は、小型特殊自動車の運転可能な運転免許証が必要です。必ず所持してください。

■損害賠償保険について

万一の交通事故補償に備え、任意保険に加入されることをお勧めします。

重要

* エンジンで封印されている所はさわらないでください。(封印が外されたと認められる場合は、一切の保証は致しません。)

補足

- * インプレメントを装着した状態では“道路運送車両法の保安基準”を満足しませんので、道路走行することはできません。
- * 作業灯は“道路運送車両の保安基準”第42条(灯火の色等の制限)において、“走行中に使用しない灯火”とされ、点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

トラクタの運転



- *トラクタを発進するときは前後左右をよく確認し、付近に人(特に子供)を近づけないでください。また、安全フレームに当たる障害物がないかも確認してください。
- *子供はもちろん、運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。また、必ずシートに座って運転してください。
- *溝や穴の近く、路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。
転落事故のおそれがあります。
- *急な坂道の登坂はバックで行なうか、作業機をできるだけ下げ、転倒防止に心がけてください。
- *下り坂は、エンジンプレーキを使用してください。ブレーキペダルを踏むだけで降りないでください。
- *負荷の大きいけん引をする場合や湿田脱出の場合には、徐々に発進し、トラクタが後へ転倒しないように注意してください。
- *高速で旋回すると、横転するおそれがあります。デフロックペダルの解除を確認して、必ずスピードを落としてゆっくりと回ってください。
- *運転席足元に空缶、部品などの物を置くとブレーキペダルやクラッチペダルの下にはさまり、ブレーキ操作、クラッチ操作ができなくなり危険です。

ならし運転(最初の約50時間)

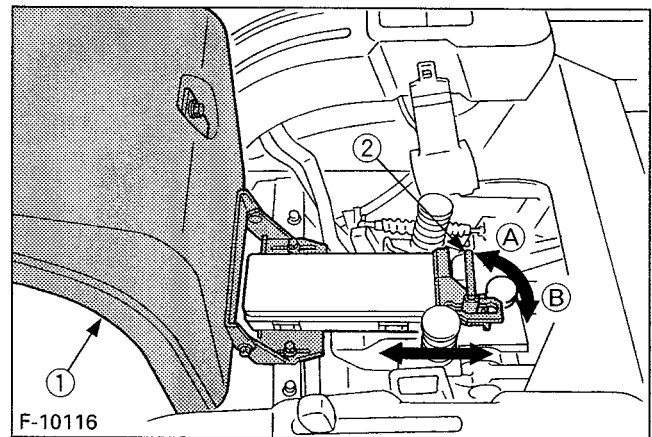
この期間中は、特に次のことを厳守してください。

1. 急なスタート、急ブレーキは慎んでください。
2. 必要以上のスピードや負荷をかけないようにしましょう。
3. 運転は、エンジンが十分暖まってから行なうようにしましょう。
4. 悪路や傾斜地では、速度を落とし安全を確認しながら走行しましょう。
5. 50時間使用後、“定期点検箇所一覧表”に従い各部の点検、オイル交換などを行なってください。

運転席回りの調節

■シート

1. 前後調節レバーでロックを“解除”すると、前後3段階に調節できます。
調節後はレバーで確実に“ロック”してください。
2. 雨のときは、シートを前に倒しておくと座席がぬれません。



- ①シート
②前後調節レバー
A“ロック位置”
B“解除位置”

ほ場への出入り時の注意



警告

- *左右のブレーキペダルは、必ず“連結”しておいてください。
- *ほ場への出入りは、高低差が大きいと危険です。アユミ板などを利用してください。
- *ほ場への出入りは、あぜと直角に行なってください。
- *ほ場への出入りの際は、あらかじめ遅い車速で運転し、途中で変速しないでください。



注意

- *倍速ターンレバーは“切”にしてください。

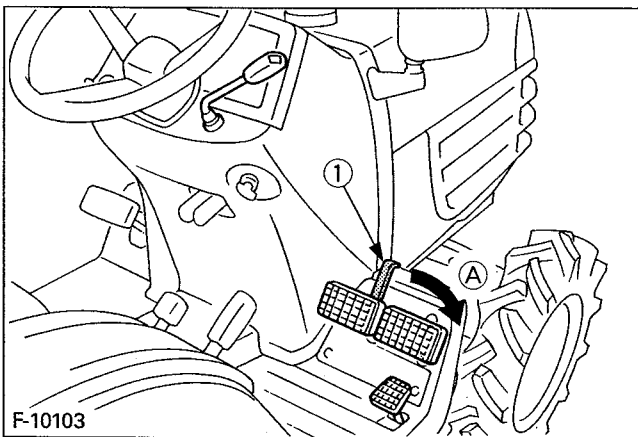
1. 作業機を下げて進むと、前輪が浮き上がりません。常に前・後輪のバランスを考えながら操作してください。
2. あぜを上がる時、4輪駆動の特色を生かして、バックで上がると格段に上がる能力が増します。

道路走行中の注意



警告

- *道路を走行するときは、左右のブレーキペダルを必ず連結してください。
- 連結しないと、ブレーキが片ぎきになり、車体が急旋回して、転倒・転落・衝突などの事故を引起こすおそれがあります。



①連結金具

Ⓐ“道路走行時連結する”



注意

- *道路を走行するときは、関係法規を守り安全運転をしてください。
 - *運転者のほかは乗せないようにしてください。転落事故の原因になります。
 - *溝のある農道や両側が傾斜している農道を通るときは、特に路肩に注意してください。
 - *トラクタは、ロータリなどの作業機を装着して公道を走行できません。
- 【道路運送車両法の保安基準】**
 (作業機を装着して道路を走行すると、他の車・電柱又はガードレールなどにロータリを引掛けて、事故の原因になります。)
- *道路走行時には水平切換スイッチを必ず“手動”にして走行してください。

1. 公道走行中進路方向を変えるときは、方向指示器で進路方向を他の自動車に知らせてください。
2. 踏切では、必ずいったん停止し、左右の確認してから、速やかに渡ってください。

補足

- *作業灯は“道路運送車両の保安基準”第42条(灯火の色等の制限)において、“走行中に使用しない灯火”とされ、点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから、道路走行中の点灯は禁止されています。

メカオートの使用方【A仕様】

後2輪を外したオート耕うん作業で、より一層の小まわり作業ができ、後2輪跡のないきれいな仕上がりが得られます。

正しい取扱いですぐれた性能を発揮させてください。

■オート切換レバー



警告

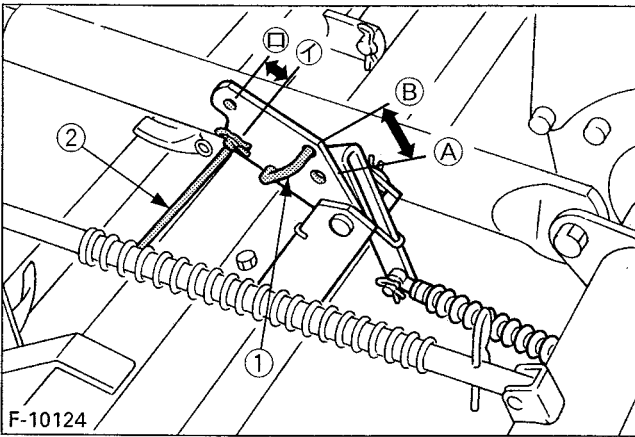
*オート切換レバーを操作する前には、必ずロータリを地面に降ろし、エンジンを停止してください。

▶ そうしないと……

ロータリが落下し、事故を引起すおそれがあります。

下表に基づきオート切換レバー及びオートロッドの穴位置を切換えてください。

作業例	オート切換レバー	オートロッド位置
一般耕うん 代かき	入	①位置
深耕こし		②位置
うね立て	切	-



①オート切換レバー ②オートロッド
A“オート入” B“オート切”

補足

*オート切換レバーを切換えるときは、油圧レバー及びオート耕深レバーを下げ位置にし、切換レバーを手前に引き切換えてください。

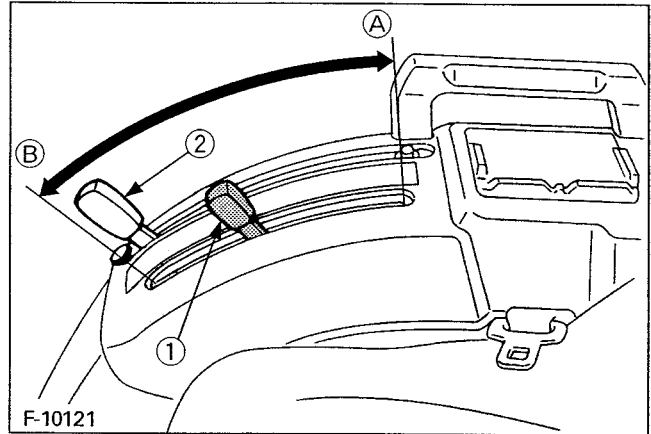
■オート耕深レバー

オート切換レバーが“オート入”のとき、オート耕うんが行なえます。

(1)オート耕深レバーを“浅”方向にすると、ロータリの耕深が浅く保持されます。

(2)オート耕深レバーを“深”方向にすると、ロータリの耕深が深く保持されます。

(3)ロータリの上げ下げは、外側の油圧レバーで行ない、作業中は一番下にしておいてください。



①オート耕深レバー ②油圧レバー
A“浅” B“深”

補足

*目盛りは深さの目安として表示しています。同じ目盛り位置でも、ほ場条件が変わると深さの設定が変わります。

*畝立て作業や片培土作業などロータリカバーを持上げて作業を行なうとき、あるいは後2輪を取付けてロータリ作業を行なうときはオート耕うんが作動しない状態(オート切換レバーが“オート切”位置)にしてください。

もし、“オート切”位置にせず、オート耕深レバーを“浅”方向にすると、リリーフが作動し油圧系統の故障原因となります。

■タイヤの空気圧、及び摩耗、損傷



*タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。

空気の入れ過ぎは、タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引き起こす原因になります。

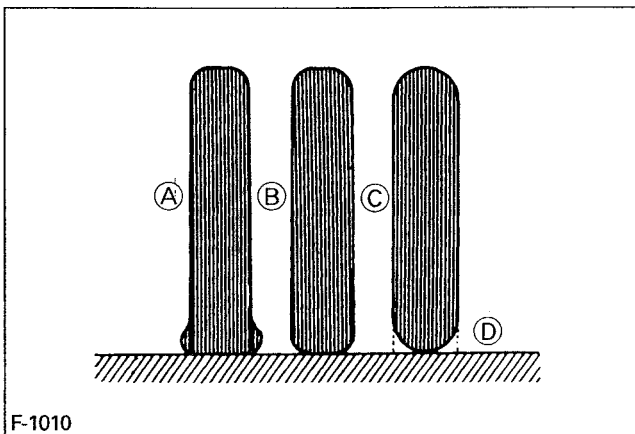
*タイヤに傷があり、その傷がコード(糸)に達している場合は、使用しないでください。

タイヤ破裂のおそれがあります。

*タイヤ、チューブ、リムなどの交換、修理は、必ず購入先にご相談ください。

(特別教育を受けた人が行うように、法で決められています。)

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。
外観から判断する目安はつぎのとおりです。



F-1010

- Ⓐ 空気が不足
- Ⓑ 標準
- Ⓒ 空気が多い
- Ⓓ 接地面

◆標準空気圧

	タイヤ	空気圧 kPa(kgf/cm ²)
前輪	4.00-8(ターフ)	350(3.5)
	4.00-12	120(1.2)
	5-12	
	5.00-12	
後輪	7-16	180(1.8)
	24×8.50-12(ターフ)	160(1.6)
	8-16	
	8-18	

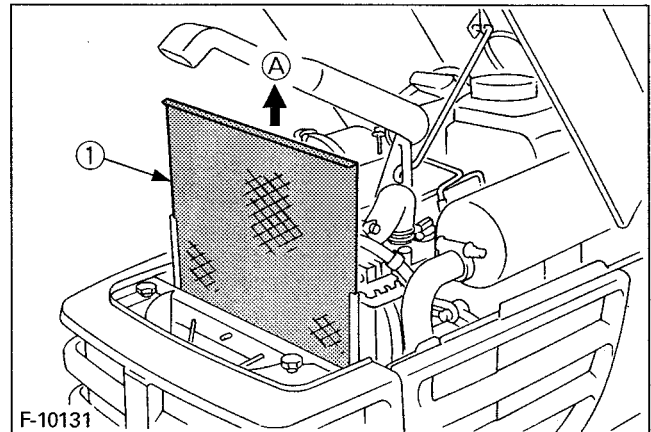
■防虫網の清掃



*エンジンを必ず停止して清掃してください。

水田や夜間作業に使用すると、防虫網に草の実やこん虫が付着し詰まることがありますので、こんなときは防虫網を清掃してください。

防虫網を引出して掃除します。



F-10131

①防虫網

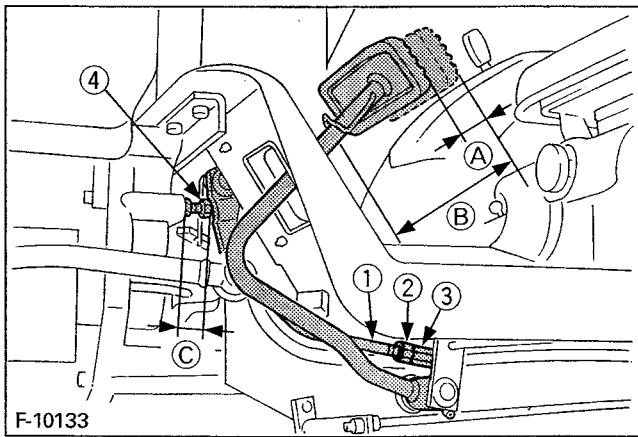
Ⓐ“引出す”

■クラッチペダルの点検・調整

適正遊び量	ペダルで15~25mm
-------	-------------

◆調整方法

- ①ロックナットをゆるめ調整ナットを回し、ペダルの遊びを調整します。
- ②ペダルを踏込んだときのストローク②を点検します。
②が100mmになるようボルトの高さ③を調整してください。
- ③調整後はロックナットを確実に締め付けておいてください。



- ①クラッチロッド
②ロックナット
③調整ナット
④ボルト
- ①A“遊び”
②B100mm

重要

*クラッチの調整が悪いと、クラッチ切れ不良、すべりを起し損傷につながります。

■ブレーキペダルの点検・調整



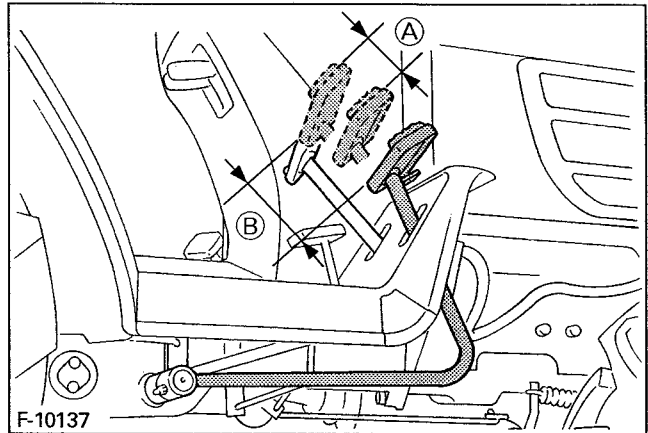
警告

- *点検・調整をするときは、必ずエンジンを止めて行なってください。
- *ブレーキの調整が悪いと、人身事故にもつながります。常に作動状態に注意してください。
- *調整時左右のペダルの踏み込み量の差を必ず“5mm以内”にしてください。差が大きいとブレーキが片ぎきになります。ブレーキが片ぎきになると、傷害事故を引起すおそれがあります。

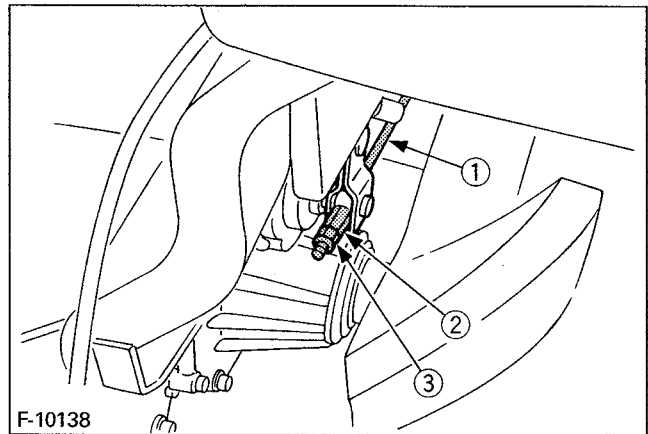
適正遊び量

ペダルで30~40mm

◆調整方法



- ①A“遊び”
②B“踏み込み量”
(この位置でのペダルの左右差5mm以内)



- ①ブレーキロッド
②調整ナット
③ロックナット

- ①駐車ブレーキを解除します。
- ②ロックナットをゆるめ調整ナットを回し、左右のペダルの踏み込み量の差が5mm以内になるようペダルの遊び量を調整します。
- ③調整後はロックナットを確実に締め付けておいてください。
- ④駐車ブレーキロックが確実に作動するか確認してください。

不調と処置

エンジンの不調と処置

もしエンジンの調子が悪い場合があれば、次の表により診断し、適切な処置をしてください。

現象	原因	処置
始動困難な場合	(1)燃料が流れない。	<ul style="list-style-type: none"> ●燃料タンクを点検し、沈殿している不純物や水分を除く ●燃料フィルタを点検し、汚れていれば交換する。
	(2)燃料送油系統に、空気や水が混入している。	<ul style="list-style-type: none"> ●パイプ・プラグ・袋ナット及び締付けバンドを点検し、ゆるみがあれば締め、損傷があれば新品と交換又は補修する。 ●空気抜きをする。 （“必要に応じた点検・整備”の項を参照）
	(3)寒冷時にオイル粘度が高く、エンジン自体の回転が重い。	<ul style="list-style-type: none"> ●ラジエータに熱湯をそそぐ。 ●気温によってオイルの使い分けをする。 （冬期はD10W30を使用）
	(4)バッテリーがあがり気味で、回転力が弱くなって圧縮を越す勢いが無い。	<ul style="list-style-type: none"> ●バッテリーを充電する。
出力不足の場合	(1)燃料不足	<ul style="list-style-type: none"> ●燃料を補給する。 ●燃料系統を調べる。(特に空気混入に注意)
	(2)燃料の流れ不足	<ul style="list-style-type: none"> ●燃料フィルタの清掃をする。
	(3)エアークリーナーの目詰まり	<ul style="list-style-type: none"> ●エレメントを清掃する。
突然停止した場合	(1)燃料不足	<ul style="list-style-type: none"> ●燃料を補給する。 ●燃料系統を調べる。(特に空気混入に注意)
	(2)燃料が流れない。	<ul style="list-style-type: none"> ●燃料フィルタを点検し、汚れていれば交換する。
排気色が異常に黒い場合	(1)燃料が悪い。	<ul style="list-style-type: none"> ●良質の燃料に交換する。
	(2)エンジンオイルの入り過ぎ。	<ul style="list-style-type: none"> ●正規のオイル量にする。
	(3)エアークリーナーの目詰まり	<ul style="list-style-type: none"> ●エレメントを清掃する。
水温計の指針がレッドゾーン付近を示すとき	(1)冷却水が125℃付近になったため。	<ul style="list-style-type: none"> ●冷却水の量(不足)及び水漏れの点検 ●ファンベルトの張り(ゆるみ)の点検 ●フロントグリル、ラジエータの防虫網にゴミの詰まりがないか点検する。
始動時青白煙が消えない。	(1)前の作業が長時間にわたるアイドルリング運転で終わっている場合、又は冷機時アイドルリング運転の繰返しであった場合、マフラ内部に湿りが残っている。	<ul style="list-style-type: none"> ●負荷をかけてマフラを十分に加熱する。冷機時アイドルリング運転の繰返し、及び、長時間にわたるアイドルリング運転は極力避ける。
	(2)ノズル不良	<ul style="list-style-type: none"> ●ノズルを点検する。
	(3)燃料不良	<ul style="list-style-type: none"> ●良質の燃料に交換する。

☆わからない場合は、購入先にご相談ください。

CLICK HERE TO **DOWNLOAD** THE COMPLETE MANUAL

- Thank you very much for reading the preview of the manual.
- You can download the complete manual from: www.heydownloads.com by clicking the link below



- Please note: If there is no response to CLICKING the link, please download this PDF first and then click on it.

CLICK HERE TO **DOWNLOAD** THE COMPLETE MANUAL